主要事業評価シート(第1次実施計画/H29・30・31年度)

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	生活文化部
	17101	ワーク・ライフ・バランス推進事業	課名	文化スポーツ課 文化共生G
	施策の大綱	05:市民力・地域力の活性化	財務	会計 01:一般会計
	基本施策	03:共生社会の推進	科	款 02:総務費
	施策の方向	03:ワーク・ライフ・バランスの推進	目	項 01:総務管理費
戦略プロジェクト	-	目	目 01:一般管理費	
事業予定期間		H 29 ~ H 31 年度	主な根拠法令要綱等	

② 目的・概要	対象	事業所、一般市民
	目的	だれもが自らの能力を発揮しながら、仕事と生活の調和を図り生き生きと人生を楽しむため、「働き方改革」(長時間勤務の是正や柔軟な働き方等)や家族のきずな、地域とのつながり(地域活動、市民活動、ボランティア)、自己実現・自己啓発等について考え、実践する期間を設け、個人や市内事業所に意識啓発を行う。
概要	「亀山市ワーク・ライフ・バランス推進週間」を設け、市民及び事業所を対象に、休暇取得などワーク・ライフ・バランス推進の取組を呼び掛けるとともに、文化体育施設の無料開放及び地域や市民活動団体と連携したイベントなどの開催により、市民一人ひとりが充実した時間を過ごせるような機運を高めていく。その他、ワーク・ライフ・バランスに関する講演会の開催や優良事例を募集し表彰を行う。	

		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
③ 事業の計画・実績	年度計画	○亀山市ワーク・ライフ・バランス推進週間に関する取組(11月) <ul style="list-style-type: none"> ・市民、事業所等への意識啓発 ・文化体育施設の無料開放 ・地域や団体との連携行事の開催 ○ワーク・ライフ・バランス講演会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・基調講演、先進事業所の事例発表 	○亀山市ワーク・ライフ・バランス推進週間に関する取組(11月) <ul style="list-style-type: none"> ・市民、事業所等への意識啓発 ・文化体育施設の無料開放 ・地域や団体との連携行事の開催 ○ワーク・ライフ・バランス講演会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・基調講演 ・優良事例の募集、発表、表彰 	○亀山市ワーク・ライフ・バランス推進週間に関する取組(11月) <ul style="list-style-type: none"> ・市民、事業所等への意識啓発 ・文化体育施設の無料開放 ・地域や団体との連携行事の開催 ○ワーク・ライフ・バランス講演会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・基調講演 ・優良事例の募集、発表、表彰 	
	年度実績	○亀山市ワーク・ライフ・バランス推進週間(11月11日～11月26日 16日間)に関する取組 <ul style="list-style-type: none"> ・広報、HP、リーフレット等による啓発活動 ・社会教育施設等の無料開放 ・団体や地域との連携行事の開催 ○ワーク・ライフ・バランス講演会の開催			
事業費	計画額	事業費	1,000千円	1,000千円	1,000千円
		国庫支出金	500千円	500千円	500千円
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	予算額	事業費	580千円	580千円	
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
決算額	事業費 ①	474千円			
	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
人件費	一般職員	5,375千円			
	所要人員	0.70			
	臨時職員等	0千円			
	総人件費 ②	5,375千円			
総コスト(①+②)		5,849千円			
受益者負担率		0.0%			

				平成29年度	平成30年度	平成31年度	
④ 指標	①	名称	ワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組む認定事業所数	計画値	1	2	3
			三重県「男女がいいきと働いている企業」認証数(累計)	実績値	0		
				単位	社	社	社
②	名称	優良事例応募数	計画値		20	25	
		個人及び事業所の合計(単年度)	実績値				
			単位		件	件	
③	名称		計画値				
			実績値				
			単位				

⑤ 事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 ワーク・ライフ・バランスの推進に向け、さまざまな機関と連携をとり、多様な施策で意識啓発を図る必要がある。また、ワーク・ライフ・バランス事業の実施については、市民や事業所、地域など広範囲を対象に啓発を行っていく。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 亀山市ワーク・ライフ・バランス推進週間を定めることにより、市民、事業所、市の3者が、それぞれワーク・ライフ・バランスについて考え、重点的に取り組む機会とした。より効果を高めるため、地域や団体など様々な主体と連携・協力を行った。

		評価	(判定)
⑥ 事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 11月11日(土)から11月26日(日)までの16日間を亀山市ワーク・ライフ・バランス推進週間として位置付け、ワーク・ライフ・バランスについて考え、重点的に取り組む機会とした。推進週間中、労働者団体や地域活動団体等が実施する各種事業やイベント等と連携を図り、そのイベント等において、ワーク・ライフ・バランスの啓発を行った。またワーク・ライフ・バランス講演会や、社会教育施設等の無料開放を行い、育児や趣味、休養、地域活動といった「仕事以外の生活」と調和をとり、その両方を充実させる働き方や生き方を目指すきっかけづくりとした。	B まずまず実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 それぞれ個人のワーク・ライフ・バランスや働き方、生き方を見つめ直すきっかけとなった。	B まずまず成果を得た

⑦ 今後の対応方針	課題	【課題は何か】 一人ひとりがワーク・ライフ・バランス推進に向けた行動を起こしていく必要がある。また、長時間労働の是正や柔軟な働き方の導入等、事業所の取組が進むよう働きかけを行い、平成29年度から「男女がいいきと働いている企業」から「みえの働き方改革推進企業」へ変更となった認証制度への登録を進めていく。	今後の方向性 ☒ 拡大 ☐ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 一人ひとりが「仕事以外の生活」と調和をとり、充実した日々が送れるよう、働き方や生き方を見つめ直すきっかけとなるイベント等を開催する。また、個人が実際に行動に移しやすいように、社会全体の機運を高める取組を行ったり、労働者団体や商工業団体、市の関係部署等と連携し、事業所の取組が進むように働きかけを行ったりする。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 市民一人ひとりが、自己実現・自己啓発、地域活動・市民活動・ボランティア活動、家族とのふれあいなど、ライフステージやそれぞれの価値観に応じた生活を送ることのできる社会が推進できる。	
対応時期		平成31年度	

【1次評価者】	生活文化部 文化スポーツ課 文化共生グループリーダー 米津 ひろみ
【最終評価者】	生活文化部 文化スポーツ課長 小林 恵太